

第10期 第6回 国立市ごみ問題審議会 議事録

日 時 平成29年(2017年)3月22日(水)午後2時～午後4時
場 所 国立市役所1階 東臨時事務室
出席者 山谷会長、丸本副会長、江川委員、大貫委員、河合委員、隈井委員、鈴木委員、十松委員、
信澤委員、前田委員(委員は五十音順)
事務局 武川生活環境部長、山田ごみ減量課長、深谷清掃係長、大倉清掃係主事、志田清掃係主事

【議事要旨】

1. 国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく進捗状況の評価について

国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく行政による進捗状況の評価について、事務局から答申書(案)の修正・変更箇所について説明した。

【山谷会長】 それでは、この答申書(案)を順に確認していきましょう。まず、1ページ目の「評価に当たって」のところですが、当初は「はじめに」となっていたのですが、「評価に当たって」にタイトルを変えております。そして3ページ目には、市民1人1日当たりのごみ量(集団回収含む)の推移の折れ線グラフが追加してあり、国立市と多摩地域平均が比較できるようになっております。ここまですべて何か意見ありますでしょうか。

【十松委員】 2ページ目ですが、(2)国立市のごみ処理の現状の1行目で「一人一日当たり」という表記になっていますが、(3)多摩地域26市のごみの状況と国立市では「1人1日当たり」となっています。こちらの数字の表記については、どちらかに統一した方が良いと思います。次の3ページ目も、西暦表記と和暦表記を統一すべきだと思います。

【山谷会長】 そうですね。他のページも同じように表記についてご確認いただき、修正していただきましょう。

【十松委員】 はい。それから、内容のことで質問があります。(2)国立市のごみ処理の現状の項目ですが、最初の段落は、1人1日当たりのごみ量が増えたという意味のものですよね。その次の段落では、ごみの量は全体として横ばいだと書いてあったので、つまり国立市の人口が減ったのかと思いました。国立市の人口は減ってはいないですよね。

【山谷会長】 この「1人1日当たり」というのは、人口の増減の影響を受けずに計算されるものだから、国立市の人口が減ったということではないと思います。

【十松委員】 そうでしたか。人口の増減には影響がでないような計算がされているのですね。分かりました。

【山谷会長】 はい。他にいかがでしょうか。

【丸本委員】 最初の目次のところで、ページ数字を縦にそろえたほうが良いと思いました。あとは、例えば1ページ目の下から3行目のところに「1. 発生抑制～2. 再使用まで」という表記がありますが、「1. 」で1マスあいているのが気になりました。表題として使われる際は、1マス空いていても良いと思いますが、文章の中に入ってくると読みにくいので、この空間はちょ

っと縮めたほうが良いかなと思いました。あと、句読点の入り方がちょっと不自然に感じるところが何か所かありました。例えば2ページ目の(2) 国立市のごみの現状について、最終行あたりの「最も減少したごみ量であるがそれ以後は」の直後に句読点があった方が良いのではないかなと思いました。あと(3) 多摩地域26市のごみの状況と国立市の1行目「1人1日当たりのごみ量の平均は、765.0gで」の部分は、「は」の後の句読点は要らなくて、「で」の後に句読点が必要ではないかなと感じたりして、たびたび読みにくさを感じる部分があったので、句読点の位置を見直していただけると良いかなと思いました。

【山谷会長】 はい。わかりました。次、隈井委員お願いいたします。

【隈井委員】 (2) 国立市のごみ処理の現状と(3) 多摩地域26市のごみの状況と国立市のところで、グラムの「g」が全角と半角ばらばらになっていましたので、統一していただいた方が読みやすいと思います。

【山谷会長】 確かにグラムの「g」が全角、半角そろっていないですね。これはそろえていただくということをお願いします。

【丸本委員】 あともう一つ、2ページ目の(3) 多摩地域26市のごみの状況と国立市の2行目で、「多いほうから」の「ほう」は漢字にした方がよいと思います。

【山谷会長】 この部分は意見としてお聞きしておいてください。そのあたりになると好みの問題でもあると思います。行政文書の場合には独特の決まった言い方がありますよね。普通の文書では「また」とか「または」というのはあまり漢字の「又」は使われませんが、行政文書ですと使われますよね。「および」も同様です。このような状況がありますので、行政の慣用も勘案して、細かい表記については行政のほうにお任せすることにしたいと思います。よろしいですかね。そうしましたら、Ⅱ. 国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく行政による進捗状況の評価及び審議の概要に移っていきましょう。

【隈井委員】 7ページ目の1. 発生抑制②くにたちカードエコロジーポイントの推進について、エコポイントの付与実績が、実は牛乳パックと買い物袋は平成26年度と平成27年度で逆でしたよね。

【山谷会長】 そうですね。つまり、それに合わせて審議会の評価等も変えていかなければならないということですね。エコポイント付与実績が減少したのは、牛乳パックではなく買い物袋のほうですので、このままではいけないですね。「牛乳パックの持参による付与ポイントが減少した」というのは誤りですからね。ですから、審議会の評価等欄の3行は削除しましょう。次、十松委員どうぞ。

【十松委員】 11ページの1. 発生抑制⑥生ごみ減量の推進の項目ですが、前回の自分のメモを読んだら、この項目でも食品ロス対策に関する評価をするというような議論があった気がするのですが、どうでしたでしょうか。

【隈井委員】 食品ロスに関する議論があったのは間違いないと思います。

【十松委員】 ただ、この項目で評価するとかしないとかっていうことではなかったのですかね。

【隈井委員】 なかったと思います。

【十松委員】 そうでしたか。この項目で評価をするというところには至らなかったようでしたね。

【山谷会長】 他にいかがでしょうか。20ページの3. 再資源化④プラスチック製容器包装ごみの再資源化の項目で誤字がありますね。計画内容(概要)のところで「容器法リサイクル法」とあり

ますが、正しくは「容器包装リサイクル法」ですよね。ここの部分の訂正をお願いいたします。それではⅡ．国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく行政による進捗状況の評価及び審議の概要のところ、特にこれ以上ご意見はないでしょうか。そうしましたら、次に参りましょう。Ⅲ．資料編のところについて、いかがでしょうか。何かお気づきのところがありましたら、お願いいたします。

ここのところは特にはないですね。では、若干の修正を加えさせていただきましたけれども、ここのところを整えていただいて、市長に答申書をお渡しするという段取りでいきたいと思っております。

【隈井委員】最後にすいません。先ほどの7ページのくにたちカードエコロジーポイントの推進の項目ですけれども、結果的にエコポイントの実績は、平成26年度から平成27年度で牛乳パックについては50%以上増加しました。一方、買物袋の付与実績はほとんど変わりませんでした。つまり、買物袋のポイントが前年度よりわずかに減少したことをもって、行政による評価をCとするということですか。ここの項目の評価がCだと納得したのは、牛乳パックのポイント付与実績が前年度よりかなり減少したからだという話があったからだと思いました。今では、逆に牛乳パックのポイント付与実績はかなり増加してしまいましたね。

【事務局】買物袋に関しましては、お店に実際に行ってマイバックキャンペーンとかを行っていたので、もっと買物袋の付与ポイントを増やしたかったものになります。

【隈井委員】ということは、やっぱり買物袋の実績に注目していて、それが前年度よりも下がったことをもってやっぱりC評価だということですか。

【事務局】やはりCが妥当な評価ではないかと思っています。

【隈井委員】分かりました。

【山谷会長】牛乳パックの回収が良くなった理由については、事務局としてはどう捉えていますか。

【事務局】正直に申し上げますと、理由については分析できていません。国立市内の駅頭などで紙ごみの分別についての広報活動を行ってきておりますが、徐々にその成果が見られているのもあるのかなと思っております。紙ごみの分別意識の浸透から、牛乳パックの回収も増加したと考えられるかもしれませんが。それでも回収量が倍にはならないと思うので、牛乳パックの回収量が倍増した理由は不明確であります。

【山谷会長】牛乳パックの回収は、スーパーとか商店街の小売店とかにご協力いただいたのですか。

【事務局】商工会の加盟店で牛乳パックを回収しているというお店がありますので、そこで実施していただいております。どちらかという大型チェーン店よりも、個人商店などが対象になっております。

【山谷会長】商工会ならそうですよね。そうすると、回収する牛乳パックはそのお店で買ったものが原則でしょうかね。

【事務局】牛乳パックは一応どこのお店に持っていっても良いということになっています。

【山谷会長】分かりました。1ポイントというのは、金額とすると幾らぐらいになりますか。

【事務局】たまったポイントは、1ポイント1円として使用できます。

【山谷会長】そうですか。

【大貫委員】100円の買い物につき、1ポイント付与されます。

【山谷会長】なるほど。牛乳パックを回収してもらうことで、100円の買い物をしたのと同じだけのメリットが得られるということですよ。

- 【大貫委員】 こうした制度で、国立での買い物を促すのは良いアイデアだと思います。前は「くにたちカード」としてカードがありましたけど、今はSuicaとパスモの中に入る形式になりますよね。
- 【十松委員】 量販店、大型店舗に牛乳パックを返しても何もメリットが得られない。でも、商工会の加盟店で牛乳パックを返せば、ポイントが付くのであれば、商工会の加盟店の方に行きたくなるのかなと思いました。こうしたところが、牛乳パックの回収量が増えたことに影響しているのではないかと感じました。
- 【河合委員】 でも、最近始めた制度ではなく、平成26年度以前からずっとやっている制度なので、急に牛乳パックの回収量が増えたのは不思議に思いました。
- 【十松委員】 今までのPRが効いてきたのでしょうか。
- 【大貫委員】 お店によっては、ポイント3倍デーというキャンペーンを行っているところもあるようです。だからそのキャンペーンをやる日に合わせてお店に行ったりします。
- 【山谷会長】 付与ポイントが3倍になる日があるわけですね。
- 【大貫委員】 あります。でも、あまりポイントのサービスをしすぎてしまうと、消費者にとって嬉しくても、お店の方はその分負担が出ますね。
- 【山谷会長】 マイナスの側面もありますけれども、お客がまた来てくれるというプラスの面もあります。せっかくですので、1.発生抑制②くにたちカードエコロジーポイントの推進の項目に、新たな審議会での評価をいれましょうか。
- 【河合委員】 大型店に持っていても、ただ返したという形だけですが、商工会の加盟店に持っていけばポイントがもらえるというのはとてもいい制度だと思います。
- 【隈井委員】 例えば、買い物袋の方はどのぐらいになったらC評価からBやA評価に上がっているものなのでしょうか。大体どのぐらいになったら、自分たちが宣伝した効果が表れたと見なすのかという、その辺はどうお考えになっているのでしょうか。
- 【事務局】 少なくとも、実績が増加していないとBやA評価にはできないと思っています。お店によっては、買物袋持参率を把握していらっしゃるお店もございまして、国立市には意識の高いお店があるなど思ったことがあります。ですから、実績の急激な増加はもう望めない状況かと思いますが、それでも少しでも増加させたいと考えています。
- 【隈井委員】 いま2年度分のデータしかないですが、年度ごとの実績を出して、下降傾向なのか、横ばいなのか、まだ上昇傾向が続いているのかを観測するのも良いと思います。国立市は意識が高いため、これ以上投入した努力に対して結果が得られないということにもなってしまうので、投資対効果を考えなければいけないのではないのでしょうか。
- 【事務局】 今年の9月に家庭ごみ有料化が実施されます。今までレジ袋というのは、ごみ袋として必要だったので、ある意味生活の中では欠かせないものでありました。買ったものを運んで帰るだけではなく、ごみの排出に役立ってもらっていたわけですが、有料化するとごみの排出の為に使えなくなります。従いまして、買物袋の持参率は増えるであろうと考えております。具体的にどれぐらい増えるのかが不透明なところになりまして、現状曖昧なお答えになってしまい申し訳ございません。また、平成28年度と平成29年度の実績比較というのは、家庭ごみ有料化の効果を見る側面が強いのかなと感じております。
- 【隈井委員】 そうすると、過去やったことに対しての評価は少し難しそうですね。将来に向けての審

議会の評価等を書くとする、今おっしゃった有料化のことに書くことになると思われま
すよね。買物袋の付与ポイントがわずかに減ったところはコメントしづらいですよ。

【大貫委員】そうですね。議会にごみの有料化に対する反対陳情とかを提出して活動していたグル
ープがありましたよね。条例で決まったことだから、もう有料化を実施するかどうかが変わるわ
けではないですかね。

【隈井委員】今ここで、有料化について事務局に言われても、お答えしづらいと思いますよ。

【山谷会長】今議論しているのは、7ページのくにたちカードエコロジーポイントの推進の項目です。

【大貫委員】そうですね。ごめんなさい。

【山谷会長】ここの審議会の評価等のところは、牛乳パックの回収ポイントが増えたことをプラス評
価するというところでまとめましょう。

【大貫委員】牛乳全体の消費量が減ったというのも考えられるのでしょうか。

【隈井委員】平成26年度と平成27年度の付与実績が逆だったときは、牛乳全体の消費量が減った
という意見は整合性がありましたが、実際の数値は逆だったので意見として成立しなくなってし
まいました。かといって、牛乳の消費量が増えたというのは考えづらいですよ。

【山谷会長】それでは、「牛乳パックの持参による付与ポイントが増加した。」「ポイント制度のさら
なる活用を期待する。」といった内容の評価をさせていただくということで宜しいでしょうか。お
願いします。

【隈井委員】有料化になっても牛乳パックの回収量とかへの影響は少ないですかね。

【山谷会長】ただ、意識が高くなると思います。ごみに対する関心が高まってきますので、牛乳パッ
クは有料化と直接関わるわけではありませんが、やはり意識が高まるとさらに回収量が増えてく
る可能性はありますね。

【隈井委員】そうですね。私がここで言いたかったことは、牛乳パックの回収実績の伸び率が高いの
で、引き続きPRに努めることで、さらなる伸びが期待できるのではないかと思ったことです。
だから、牛乳パックについてはこのまま、ポイント制度についてPRしていくことが良いのでは
ないかと思いました。

【大貫委員】でも、別の問題として、牛乳パックの再利用はうまくいっているのでしょうかね。

【隈井委員】そこはまた別問題で、まずは回収することが重要だと思います。

【大貫委員】そうですね。

【山谷会長】それでは、今のご意見もありましたので、さらなるPRにより、回収量の拡大を期待す
るというような評価でよろしいでしょうか。

【隈井委員】そうですね。

【山谷会長】はい。そういうところでよろしいでしょうか。それでは、平成27年度実績の評価につ
いての審議は以上にしたいと思います。ありがとうございました。

2. その他

○答申の日程について

答申の日程の確認をいただいた。

・平成29年4月6日（木） 午後1時30分から国立市役所2階 市長公室

○委員の退任について

鈴木委員が第6回をもって退任することとなった。

— 了 —